

掲示板

研究会・研修会等への 報告者・講師の派遣		(平成30年7月～9月)	
講義 飯澤 理一郎	(当研究所・所長)	A 北海道	とき 平成30年7月11日
○「アフリカ地域アグリビジネス 振興と農村開発」	主催 JICA北海道	テーマ 北海道における六次産業 化の取組みとその意義	講義 黒澤 不二男
テーマ 日本における農産品の流 通	とき 平成30年7月11日	とき 平成30年8月14日	(当研究所・顧問) 研究報告
講義 飯澤 理一郎	(当研究所・所長)	主催 JICA北海道	○「モザンビーク国別研修・農村 振興技術セミナー」
○「農民参加による農業農村開発 (C) コース」	とき 平成30年8月23日	とき 平成30年9月15～16日	○「二〇一八年度食農資源経済学 会第一回大会（長崎大会）研 究報告」
講義 飯澤 理一郎	(当研究所・所長)	主催 食農資源経済学会	○「二〇一八年度食農資源経済学 会第一回大会（長崎大会）研 究報告」
○「農民参加による農業農村開発 (C) コース」	とき 平成30年9月17日	テーマ 雇用労働力を組み入れた 野菜作主幹経営の経営展 開に関する一考察	【学位論文】
講義 飯澤 理一郎	(当研究所・所長)	個別報告 山口 和宏	カリウム施肥・りん酸施肥およ び栽植密度がテンサイの収量およ び品質に及ぼす影響と土壤分析値 との関連について
○「二〇一八年度農民参加型用水 管理コース（ベトナム）」	とき 平成30年8月23日	主催 JICA北海道	研究部次長 鷹田秀一 (当研究所・所長)
テーマ 北海道における地域振 興・開発の展開		テーマ 農産物の流通と卸売市場	平成30年9月26日に北海道大学 博士（農学）の学位を取得しまし た。
			専門は植物栄養生態学です。



DATA FILE

関連事項／DATA

東北大学 大学院農学研究科・農学部
〒980-8572

仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

☎ 022 (757) 4003

Fax 022 (757) 4020

京都大学 大学院経済学研究科
〒606-8501

京都市左京区吉田本町

☎ 075 (753) 3400

Fax 075 (753) 3492

北海道農業共済組合連合会

〒060-0004

札幌市中央区北4条西1丁目1番地

☎ 011 (271) 7212

Fax 011 (232) 3246

北海道農政事務所

〒064-8518

札幌市中央区南22条西6丁目2-22

エムズ南22条第2、第3ビル

北海道帯広農業高等学校

〒080-0834

帯広市稻田町西1線9番地

☎ 0155 (48) 3051

Fax 0155 (48) 3052

音更町役場

〒080-0198

河東郡音更町元町2番地

☎ 0155 (42) 2111

Fax 0155 (42) 2117

一般社団法人 北海道地域農業研究所

〒060-0806

札幌市北区北6条西1丁目4番地2

ファーストプラザビル7階

☎ 011 (757) 0022

Fax 011 (757) 3111

HP : <http://www.chiikinouken.or.jp>

E-mail : office47@chiikinouken.or.jp

◆大型台風の後、北海道は記録的大地震に見舞われた。震源地の胆振東部ならびに各地で土砂崩れや家屋の倒壊、液状化現象による大きな被害をもたらし、道内全域に及ぶ大規模停電の発生は、ライフル、サプライチェーンを寸断しさるなる混乱を招いた。予見する」とや回避

できない自然の猛威には、感嘆符と疑問符しか出でこない。被災された方々への心よりのお見舞いはもとより、一刻も早い復旧を願うばかりである。道内、道外からの多数のボランティア応援や支援の輪の広がりを見るにつけ、心温まる思いを実感した。

◆特集記事「力強い北海道農業の構築に向けて」では、米政策見直し、農産物種子法廃止という大きな制度改変に対し、お一人の先生から懸念される問題点や北海道が果すべき役割・展望について提言をいただいた。ご一読願いたい。

◆前号からスタートした、いきいき農業高校の第二回は帯広農業高校。酪農青春コミック「銀の匙」のモデルとなつたことでも知られ、実写化された映画では本校も撮影場所となり、農業高校の学校生活が垣間見られる。寮生活や特色を生かした学習活動に励む若い力が、地域とともに光輝いている。

(片岡 省一)



表紙
「秋の小麦畑」
小麦作付け日本一の
音更町
写真提供：音更町役場